

人間発達学部
KAMIYA Eiji
PROFILE
職名 人間発達学部 児童教育学科教授
学歴 京都大学大学院教育学研究 科博士後期課程単位取得後 退学（1982）
学位 博士（人間文化学）(滋賀県 立大学、2009)
所属学会 日本教育学会、日本比較教 育学会、日本保育学会、関 西教育学会
専門分野 保育学、幼児教育学

神谷 栄司

かみや えいじ

研究課題1 ● ヴィゴツキー理論の研究

研究課題2 ● 保育実践の研究

業 績

【著書】

『ごっこ遊び・劇遊び・子どもの創造—保育における経験と表現の世界』／法政出版、1993年7月、単著。

『幼児のものの見方・感じ方—自然と遊ぶ』／法政出版、1998年4月、単著。

『幼児のイメージ力を育てる—お話とごっこ遊び』／三学出版、1999年5月、単著。

『幼児の世界と年間保育計画—「ごっこ遊びと保育実践」のヴィゴツキー的分析』／三学出版、2003年10月、単著。

『保育のためのヴィゴツキー理論』／三学出版、2007年10月、単著。

『未完のヴィゴツキー理論—甦る心理学のスピノザ』／三学出版、2010年6月、単著。

【学術論文】

「トルストイ教育論の基本構造とその諸矛盾（上）」／『大阪千代田短期大学紀要』13号、1984年7月、単著。

「トルストイ教育論の基本構造とその諸矛盾（下）」／『大阪千代田短期大学紀要』14号、1985年7月、単著。

「幼児教育の概念について—トルストイ、倉橋惣三、カミイとデブリーズの批判的検討（上）」／『大阪千代田短期大学紀要』28号、1999年12月、単著。

「ヴィゴツキーの情動論と「人間の心理学」」／『ヴィゴツキー学』5号、2004年3月、単著。

「想像、表現、身体的対話」／『就学前教育』2004年7号、2004年6月、ロシア語、単著。

「ヴィゴツキー理論の発展とその時期区分について（I）」／『佛教大学社会福祉学論集』1号、2005年3月、単著。

「ヴィゴツキーの人格発達理論と具体的個人の問題」／『人間発達研究所紀要』、2008年10月、単著。

「情動の理論—ヴィゴツキーはスピノザをどのように読んだのか」／『ヴィゴツキー学』10号、2009年7月、単著。

【国内学会発表】

「保育構造を考える」／日本教育学会、京都大学、1996年8月、単独。

「ヴィゴツキー理論と保育実践」／日本発達心理学会第15回大会、白百合女子大学、2004年3月、単独。

「心と身体の関係から学校体育を考える」／大阪体育学会第24回大会、関西大学、2004年3月、単独。

「ヴィゴツキー理論とスピノザ」／日本発達心理学会16回大会、神戸国際会議場、2005年3月、単独。

「ヴィゴツキー理論の発展とその時期区分について」／日本心理学会第74回大会、大阪大学、2010年9月、単独。

【国際学会発表】

「自然を素材にした保育について」／ロシア教育アカデミー幼児教育・家庭教育研究所、2001年3月、日本語、単独。

「ヴィゴツキーの『年齢期』または『人格』概念とアマルティア・センの『潜在能力』概念」／第7回ヴィゴツキー記念国際研究集会、ロシア人文大学、2006年11月、ロシア語、単独。

「ヴィゴツキー理論の全体的・発展的理解のために」／国際文化活動研究学会第1回アジア大会、武蔵工業大学、2007年9月、日本語、単独。

「遊び理論における主知主義の克服—ヴィゴツキー理論とスピノザの哲学」／第8回ヴィゴツキー記念国際研究集会、ロシア人文大学、2007年11月、ロシア語、単独。

「発達の最近接領域としての遊びのルールと生活のルール—ピアジェ＝デュルケーム理論とヴィゴツキー＝スピノザ理論」／第11回ヴィゴツキー記念国際研究集会、ロシア人文大学、2010年11月、ロシア語、単独。

【翻訳】

『ごっこ遊びの世界—虚構場面の創造と乳幼児の発達』(ヴィゴツキー、レオンチェフ、エリコニン他著)／法政出版、1989年9月、単訳。

『「発達の最近接領域」の理論』(ヴィゴツキー著)／三学出版、2003年7月、共訳。

『情動の理論—心身をめぐるデカルト、スピノザとの対話』(ヴィゴツキー著)／三学出版、2006年7月、共訳。

【その他】

「中村和夫先生への書簡」／『心理科学』27巻、1号、2007年3月、単著。

「「遊び」の発見—ヴィゴツキーの「情動」「発達」「コミュニケーション」の理論的射程」／『談』78号、2007年3月。